

シリーズ

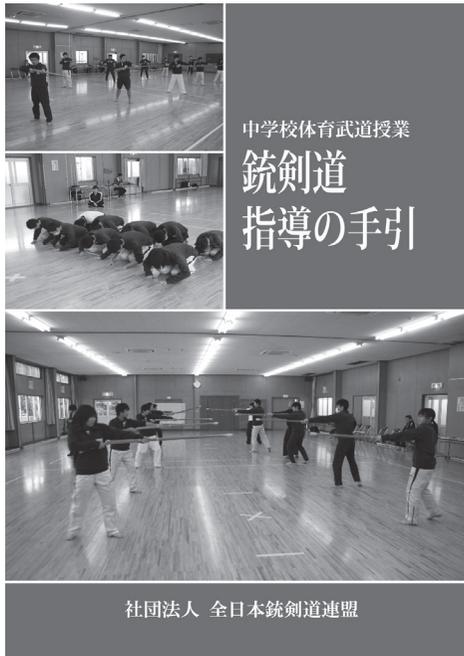
中学校武道

授業の充実に向けて

44

指導教本のねらいと活用のポイント 銃剣道

社団法人 全日本銃剣道連盟



平成 24 年 1 月発行予定
『中学校体育武道授業 銃剣道指導の手引』
(A 4 判、DVD 付)

教育基本法の改正に伴い、平成 20 年 3 月に新しい中学校学習指導要領が公示され、いよいよ来年度から保健体育科の授業で武道が必修となる。

銃剣道も柔道・剣道・相撲と同様に授業で行うことが出来る武道種目の一つとなっている。全国の中学生全員が武道を学ぶということは大変画期的な出来事であり、過去、中学校の保健体育科で授業実践のない銃剣道にとってはなおさらのことである。現状では、銃剣道を経験している保健体育科の教員は少なく、来年度以降、実施された場合は未経験の教員が指導する、または外部指導者とともに授業を進めていくことになると思われる。

このようなことを踏まえ、当連盟では未経験の教員でも利用しやすいことを第一に、『中学校体育武道授業 銃剣道指導の手引』（以下、手引）の作成に取り組んでいる。まだ作成中ではあるが、この誌面を借りて手引の概要と活用方法について、紹介したいと思う。

目次

- 1 単元計画
 - (1) 第1学年
 - (2) 第2学年
 - (3) 第3学年
- 2 評価方法
- 3 銃剣道の特性と歴史
- 4 銃剣道で使用する用具
- 5 銃剣道の技
- 6 銃剣道の礼法
- 7 銃剣道授業の展開
 - (1) 第1学年時
 - 第1学年時学習指導案
 - 第1学年時技能解説
 - (2) 第2学年時
 - 第2学年時学習指導案
 - 第2学年時技能解説
 - (3) 第3学年時
 - 第3学年時学習指導案
 - 銃剣道用具の着装方法と収納方法
 - 第3学年時技能解説
- 8 資料
 - (1) 中学校学習指導要領
 - (2) 中学校学習指導要領解説
 - (3) 武道の理念・武道憲章
 - (4) 銃剣道修行の指標

1
手引作成にあたっての
組織的背景

平成20年3月改訂の中学校学習指導要領に、武道必修化が明記された。これに伴い、当連盟では指導普及部が担当となり、必修化に向けた指導計画づくりについて検討した。しかし、中学校、高等学校を通じ、学校体

育の授業で銃剣道が実施された例はなく、ゼロから着手しなければならなかった。実際には、まず新学習指導要領解説保健体育編に示される第1・2学年の学習内容を基に、1学年13時間程度の中で指導する内容の選定から始めた。

選定した指導内容は、日本武道館・全国都道府県立武道館協議会と共催して実施している地方青少年銃剣道錬成大会におい

て一部内容を試しながら、その確認を行った。また、指導法についても、部活動で銃剣道を指導する教員を交え、指導者講習会などにおいて討議を行った。

平成21年3月、指導内容の大筋を決定し、それに基づいた第1学年から第3学年の指導計画案を作成した。

平成22年、手引の作成にあたり、高等学校部活動で銃剣道の指導を行っている保健体育科教員をはじめ、わかりやすい本文作成の観点から国語科教員、女子生徒への対応として銃剣道の経験のある女性小学校職員、そして指導内容に含まれる歴史分野の専門家を、指導の手引作成委員として選定した。

また、同年12月、日本武道館との共催で実施した中学校武道授業（銃剣道）指導法研究事業において、同委員を研究者として召集し、千葉県勝浦市内の中学生11名に対し、指導案を基にした研究授業を行った。

そこでは、指導内容、指導法を検討し、手引で使用する表現も含めてそれぞれの内容の具体化を図った。

平成23年度には、銃剣道の経験のある中学校保健体育科の教員を新たに指導の手引作成委員に加え、同研究事業で前年度に試せなかった第2学年時の指導法について協議した。ここでは木銃にテープを巻いて印を付け、応じる位置を示すなど、安全対策も含め、新たな指導法を定めた。

また、同年12月、日本武道館との共催で実施した中学

全国の中学校で銃剣道を経験したことのある教員は非常に少

2
手引作成のねらい

ない。したがって、銃剣道自体を見たことのない教員がほとんどであると予想される。このような実態を踏まえ、手引の作成にあたっては、以下の内容を基本方針とした。

① 銃剣道はどのような動きをするのかを視覚的に理解できるようにする

銃剣道自体を知らない教員が、構え方をはじめ、突き方、足の

捌き方など授業で行う動作を目で見てわかるように写真を多く取り入れ、文章説明は、なるべく簡潔にした。また、木銃の握り方や足の動き方を分かりやすく解説するため、写真はカラーで掲載することとした。

② 掲載内容を項目別にして、参考にした事項を確認しやすくする

手引には、銃剣道授業の単元計画、各学年毎時間の学習指導案、単元計画で示す技の解説とその指導方法、安全対策のほか、銃剣道の歴史、その特性や用具の解説を掲載する。授業は手引

に沿って行われることが望ましいが、実際には、教育現場の実態を間近で知る教員が、授業時間数及び生徒の理解度等により、組み替える場合も少なからず考えられる。そのため、授業を実施するうえで学習指導案や指導方法など、参考にしたと思う事項がすぐに確認できるように、それぞれを項目ごとに分けて掲載する。

③ 銃剣道の形に関する理解を促すため、映像資料（DVD）を添付する

単元計画では、第1・2学年時で全ての生徒が銃剣道の形を行うこととしている。突く動作のみであれば、動きが単純なため写真解説のみでも理解することが出来ると考えられる。

しかし、「形」では突く動作のほかに、諸作法や前後の動作の流れを覚えなければならぬ。そのため、写真と文章の解説のみでは理解しづらいことを考慮し、「形」の映像が収められたDVDを手引に添付することにした。

3 授業の組み立て方・進め方

授業の中で銃剣道の何をどのよう指導するのか、試行錯誤を重ねた中で単元計画を作成した。評価については、学習指導要領の内容に基づいて行うのはもちろんだが、技能面にかたよらないものとする。

単元計画作成にあたっては、以下の内容を重視した。

① 学習目標を明確化する

銃剣道を初めて学ぶ中学生に対し、まずは学習意欲を持たせることを考え、生徒全員が理解しやすい最終目標を学年ごとに明確に示す。指導する教員も「これを出来るようにさせる」、「授業を受ける生徒も「これが出来るようになる」というものをはっきりさせる。

具体的には、学習指導要領解説に示される柔道・剣道・相撲の「技能」の内容を銃剣道に置

き換え、次のようにした。

第1学年及び第2学年は「相手の動きに応じた基本動作から、基本となる技を用いて、突いたり受けたりするなどの攻防を展開すること」を基にして、第1学年時は銃剣道の形の1本目・2本目、第2学年時は1本目・2本目の応じ技で構成される銃剣道の形の5本目・6本目を、最終的に出来るようにする。

第3学年は「相手の動きの変化に応じた基本動作から、基本となる技や得意技を用いて、相手の構えを崩し、しかけたり応じたりするなどの攻防を展開すること」を基に、用具を装着しての簡単な試合を行えるようにする。

② 授業時間・生徒の理解度等、学校の実態に則した授業を展開する

学年ごとに最終的な学習目標を明確にすることは、教員の裁量で授業が進めやすく、銃剣道の経験のない教員が授業を行う場合にも有効である。



平成 22 年度中学校武道授業（銃剣道）指導法研究事業の様子。11 名の中学生に協力してもらい、指導案を基にした研究授業を行った

例えば、第1・2学年時はそれぞれ定める「形」が出来るようになることが最終目標である

ため、突き方・受け方を指導し
た後に、それぞれの「形」を指導して覚えさせてもよいし、「形」

を覚えさせながら突き方・受け方を指導してもよい。

第3学年時も第1・2学年時で、しかけ技、応じ技の基本を「形」によって学んでいるので、新たに「突き流し」と「打ち払い突き」といった技を覚えさせて試合を行わせてもよい。また、第1・2学年時で学んだ技のみで試合を行わせてもよい。

このように、授業時間数や生徒の理解度等に則した授業を展開できるようにする。

③ 相手を尊重する態度や伝統的な行動の仕方を学ぶ

学習指導要領解説に示される第1・2学年の「態度」の内容である「武道に積極的に取り組むとともに、相手を尊重し、伝統的な行動の仕方を守ろうとすること、分担した役割を果たさうとすることなどや、禁じ技を用いないなど健康・安全に気を配ることができるようになる」ことを基に、単元計画では銃剣道の形を取り入れ、それらが出るようになることを最終的な

単元の目標とした。

銃剣道の形は基本的な技を使って一定の形式と順序によって構成されている。その中には突くべき機会、木銃の確実な用法、間合いの判断、といった銃剣道の技術的要素のみならず、姿勢、残心、礼法、相手を尊重する態度、といった武道の伝統的な要素も含まれている。

単元計画に「形」を採用した具体的な理由は、以下のとおりである。

▽「形」は2人組で行うもので、打方・仕方という、それぞれ決まった役割を果たすことが必要となる。

▽動作はすべて打方の動きに仕方が合わせてほぼ同時に動作を行うなど、二人の協力が必要であり、相手を尊重する態度が養われる。

▽第1・2学年時の「形」は用具を装着せず、体操服のまま行わせることとしており、相手に突きを当てないなど、安全に気を配ることの大切さを

知る。

このようなことから学習指導要領解説に示される「態度」の内容を学ぶには銃剣道においては「形」が最も適していると判断した。

④ 武道の特性、銃剣道の特性や歴史、技の名称や用法を学ぶ

学習指導要領解説に示される「知識・思考・判断」の内容である「武道の特性や成り立ち、伝統的な考え方、技の名称や行い方、関連して高まる体力などを理解し、課題に応じた運動の取り組み方を工夫できるようにする」ことを基に、授業では第1学年時のはじめに、銃剣道を初めて見る生徒に対し、試合のDVDを視聴させて、その特性や歴史、礼法のほか、用具や競技方法といった基礎知識を理解させる。また、銃剣道を正しく行うには、正しい姿勢が重要になることから、その方法・意味を説明するとともに、平素の生活にもつながる姿勢の効果を学ぶ。銃剣道を行うことで得られる体

力的、精神的効果を理解させる。

⑤ 木銃の取り扱い方と銃剣道の安全上の留意点を理解させる

単元計画では、第1・2学年時で「形」を行うことにしているが、用具（防具など）は装着しない。したがって、用具を装着していない相手に対して木銃で突く動作を行うことになり、安全対策及びその指導については、十分に留意しなければならぬ。

そこで手引には、木銃の取り扱い方について、危険な例を写真で示し、その理由も含めて掲載することになっている。また、「形」を行う上では、相手の突きに対して大きく下がって距離を取ることが生徒に十分理解させることが重要である。距離の取り方が足りない、または、応じ技を学ぶ際に応じる側の木銃が仕掛ける側の手に当たるなど、危険と判断した場合にはクッションなどを胸に巻く、タオルを手に巻くなど、具体的な対策をとらなければならない。手引で

は、写真付きでこれらの安全対策を掲載する。

⑥ 学習指導要領に基づいて評価を行うが、技能面にかたより過ぎないよう注意する

単元計画は、前述のとおり、学習指導要領の内容を基に作成している。したがって、評価の基準は「技能」「態度」「知識、思考・判断」のそれぞれに設け、「上手く出来る」という技能面のみにかたよらず、「態度」や「知識、思考・判断」を含め、総合的に行う。



評価は技能面にかたよらず、態度等も含めて総合的に行う

4 補助教材の紹介

中学校武道授業の実施にあたり、役に立つと考える補助教材を紹介する。
※全て当連盟が作成・発行。

▽『銃剣道教則』

当連盟が定める銃剣道の技術書であり、銃剣道基本技、応用技、形の解説をしている。

▽『ジュニア指導者の手引き』

特に高校生以下のジュニア指導向けの指導書であり、教則に示す基本技・応用技のほか、銃剣道の特性や歴史、ジュニアに対する技術的及び年齢に応じた指導法を紹介している。また、陥りやすい癖やその修正方法、

栄養管理計画など中学校の授業においても活用できる内容となっている。

▽銃剣道パンフレット

銃剣道とはどのような武道なのか。試合はどのように行うのか。用具はどのようなものを使うのかなど、銃剣道を紹介する内容を掲載した普及PR用パンフレットである。手引と併せて頒布する予定である。

▽銃剣道DVD

第1巻「基本技・応用技編」、第2巻「審判・形編」の2巻セットとなっており、銃剣道教則に示す技の映像による解説が収

録されている。

5
手引の入手方法と
頒布予定

手引は平成24年1月の発刊を目指し、完成後、各都道府県の銃剣道連盟及び教育関係機関、全国都道府県立武道館協議会加盟武道館、入手希望中学校や教員等に無料頒布する予定である。詳しくは連盟事務局まで。

社団法人全日本銃剣道連盟事務局

〒102-00091
東京都千代田区北の丸公園2-3
日本武道館内
電話 03-3201-1020
FAX 03-3201-1050

6
おわりに

銃剣道は、教員に経験者が少なく、一般的な認知度も高くないのが現状である。しかし、体験学習で経験した生徒や、これまで実践してきた指導法研究

業に参加した中学生など、銃剣道に興味を持ち、楽しんで学んでいる子供たちがいるのも事実である。武道必修化にあたり、銃剣道を通じて武道のすばらしさを多くの生徒に感じてもらいたい。

この手引の完成を機に、中学校で銃剣道の授業が数多く実施され、充実した授業が展開されるよう願っている。当連盟では、銃剣道の普及活動をより一層進めていくとともに、これからの学校武道、とりわけ中学校武道必修化に対する取組を継続して行う所存である。

「日本教育新聞」購読者特典

QA 教育を応援するコミュニケーションサイト

先生解決ネット

*日本教育新聞社の運営サイトです。

N 日本教育新聞社

“先生方をもっと応援していこう!”

を合言葉に、オープンした
ホームページが「先生解決ネット」。

Communication

教育専門 Q&A

先生方が日頃抱えている疑問や課題を、全国の「同僚」と共有し、知恵を出し合いながら答えが導けるように、応援するための教育専門 Q&A サイトです。



今日の生徒の言葉…
生徒指導で最近悩んじゃうなあ。



Archive & Search

教育専門 ニュース

新聞を通じて得た情報を、必要なときに引き出し、より日常的に活用できるように、応援するための教育専門 ニュースサイトです。



イラストレーション:石ノ森章太郎

アクセスはこちらから

www.kyoiku-press.com